

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スタッフ一人ひとりが、意見を出し合い入居者の気持ちになり、地域の中で自分らしく暮らしている理念を作成している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム玄関の目に付く場所に理念を掲げ、スタッフが、日常的に意識できるようにし、実践と関連づけて支援することを心掛けている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会や、地域運営推進会議のときに、理念を説明している。又、ホーム玄関に理念を掲示しており、固い物でなく初めてホームへ訪れた方にも親しみやすいよう、家族の方が挿絵をしてくださっている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣住民の方への日常の挨拶や散歩、ゴミ捨てなどを通し付き合いをさせていただいている。時には、掃除、花植えや、野菜などを分けていただいたり、地域交流の企画の相談などを行っている。	○ 日常的に立ち寄っていただける機会は数えるほどである為、気軽に立ち寄れるよう様々な企画を通し交流を図りたい。又、気軽に立ち寄っていただけるよう自分たちからも出て行くようにしたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入らせていただき、入居者と共にゴミだし、ステーション立ちを行い、回覧板、広報に目を通し地域のイベントに参加している。又、参加するだけでなく、ホームでも地域交流の企画を設け、家へ直接挨拶へ行ったり、チラシを配ったりと、交流に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今年の10月に民生委員を対象に介護教室をひらく予定である。又、昼間一人になってしまう高齢者の方と畑仕事等を通じ、交流する予定がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員が意義を理解し、評価を活かしサービスの質の向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度自治会長、高齢対策課長、地域包括支援センターの方と行い、実態報告、近況報告をさせていただいている。そして、様々な意見を頂きサービスの向上につなげている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	電話等で助言を求めたり、話しをすることはあるが、今のところ行き来することはできていない。	○	今後話し合いの場を設け、いつでも行き来できる関係を築き、サービス向上につなげたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会があり、スタッフ間に資料など回覧しているが、個々の必要性を話し合ったり活用するまでには至っていない。	○	スタッフ一人ひとりが、さらに理解を深めると共に今後必要になると考え、関係者、スタッフでの話し合い場をもっていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法は、全スタッフ資料などに目を通し、勉強会をしている。そして、スタッフ会や日常的にも話し合いをし、見過ごすことのないよう細心の注意を払っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は、十分な時間、話し合いの場を設け、説明を行い理解、納得していただけるよう努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中から、入居者が、訴えていることを聴きもらさず、スタッフ間で話し合い、相談し運営に反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎日家族へ、日常の写真を添付し、日常の様子、近況報告の便り、預かり残高の報告と共に便りをだしている。又、面会の回数が多い方は口頭で、そうでない方は電話等で、日々の報告も行っている。その他は、個々のアルバムを作成し日々の様子を伝えている。異動等については家族会で報告を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議、家族会や面会にこられた際の会話の中、電話など、いつでも言ってもらえるよう話し、意見、苦情等あった場合、法人院長、事務長、スタッフに即座に報告し、速やかに対応し、サービスに反映させ改善につなげている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会等、話し合いの場を設けたり、いつでも意見、提案を言え、聞ける環境創りをし、その都度法人院長、事務長に報告し、反映している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務体制は、勤務作成時にきめ細やかサービス提供ができるよう作成し、不十分な場合は話し合いの場を持ち調整している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動の際は、顔なじみのスタッフの異動をお願いしたり、入職、離職の際は、家族会の場で入居者の方と共に顔合わせ、お別れ会を行い、入居者の方へ配慮している。</p>	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修（特に認知症に関する研修）スタッフが参加したい研修には、積極的に時間の許す限り参加している。その他に、参考文献の活用、働く上で困った際は、法人院長、スタッフに助言を求めている。</p>	<p>○</p> <p>研修を受ける機会はあるが、働きながらトレーニングしていくこと、段階に応じて育成する為の計画を今後法人としてもどのようにしていくか話し合いの場を設け、今以上のスキルアップの為に研修や法人院長による勉強会などの機会を増やして行きたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修等を通し、同業者と交流する機会を持っているが、勉強会、相互訪問等を行うまでには至っていない。</p>	<p>○</p> <p>地域同業者との勉強会、相互訪問等を積極的に持ち、サービスの質の向上をさせて行きたい。又、同市内のグループホームと交流会の話もある為、実現にむけ取り組んでいきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフ希望休の配慮、法人内、スタッフ同士の親睦会などを通しストレスの軽減を図っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>外部研修などの積極的な参加により、良い刺激を受け、ホーム内外でも意見交換できる場を設け、向上心を持って働けるよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に見学に来ていただき、その後、ゆっくりと話しをする場を設け、ご家族と共に本人の不安、求めていることを聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に見学に来ていただき、その後、ゆっくりと話しをする場を設け、ご家族に不安、求めていることを聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にゆっくりと話しをする時間を設け、必要としている支援を聴き出し進める対応をしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前見学や契約時などに入居者、スタッフと話しをする機会を設け、入居の際には入居式を行い、家族の方とも相談しスタッフが寄り添い安心感をもっていただいている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	センター方式を活かし、入居者の方が経験してきたことを活かしていただき日々の生活を共にすることにより、学ばせていただき、喜怒哀楽を共にすることで、支えあう関係を築いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの行事の際には、必ず家族の方を誘い、面会の際には今日あった出来事、家族の方が気づいた事等、小さなことでも話しをし喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会にこられた際は、お茶をお持ちしゆっくりと家族で過ごしていただけるようにし、本人から家族に会いたい等の訴えがあった際は、電話をして話しをしたり、出かけたり出来るよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた親類、友人との関係は、ご家族の配慮で途切れないようになっており、馴染みの場所へは、年間行事に組み込み、支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者が孤立しないよう、スタッフが仲介に入り、関わり支えあえるよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	お墓参りや、郵便物、電話、電子メールなどを通じ関係が続いている。又、ホームに遊びに来てくださる家族や、行事にも参加して下さる方もいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話、センター方式、ご家族の意見を通じスタッフで話し合い、常にその方の思いを頭にいれ支援している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からいたたく情報、日常の会話、センター方式にて把握している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の状態、様子、会話等を記録に残し現状を把握し、変化があればスタッフで話し合いをし対応している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式をもちいて、入居者、ご家族の思いを反映させ、その人がその人らしく生活していくための課題を把握し、スタッフ間で話し合い介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを行い、変化があった場合はセンター方式を再検証し、家族に相談し、スタッフ会で話し合い新たな計画作成に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を必ず個別に記録に残し、日々の様子を基に介護計画や、実践の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への受診、同事業所デイサービスとの交流、ご家族、又はホームでの外出外泊等、要望に応じて可能な限り支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や、必要性に応じてボランティア、教育機関等と協力して支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在必要としている方がいないため利用していないが、隣接デイサービス居宅ケアマネと話し合っているため他のサービスを利用する準備はできている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護については資料等で学んでいるが、現在必要とされる方がいないため協働するまでに至っていない。	○	今後必要になると考え、地域包括センターとの協働体制について見当していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人、ご家族が希望している医療機関への受診対応はしており、必ず事前に連絡し、認知症であることを理解、配慮していただき、適切な医療が受けられるよう支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	経営母体が医療法人であるため、入居者の状況等をしっかりと伝え、院長などから指示、助言等いただき、診断、治療を受けられるよう支援している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	経営母体の医院、隣接しているデイサービスの看護師に相談、助言を求めることはあるが、入居者をよく知る看護師という意味では行っていない。	○	入居者を知り、理解してもらえよう、スタッフ、看護師で話し合いの場を持って行きたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご家族、病院関係者と話し合いの場をもち、早期退院できるよう情報交換、相談に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期のケアのあり方については、スタッフ会などで話す機会を持ち、方針を固めているが、本人、家族、院長と繰り返し話し合いの場を持つことは行っていない。	○	早い段階からの対応が必要になってくるため、全員で方針を共有するためにも、早い段階から話し合いの場を持つよう努力したい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来ること、出来ないことの見極めはできており、院長と共にチームとして支援に取り組めるよう準備できている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所へ移り住むという例が現段階ではなく、病院等へ移る場合は、ご家族、ケア関係者、病院関係者共に十分な話し合いをし、情報交換を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー確保はスタッフ全員で徹底しており、入居者に対し尊敬の気持ちを持って対応することを心掛けている。又、記録等個人情報の取り扱いも徹底しており、外部評価等で開示するよう場合は、ご家族、本人に必ず許可をとっている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が、思いや希望を表せるよう、又、本人に合わせた説明などは、いつでもゆっくり話しを出来る環境を作ることで行っている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の日々の様子や会話の中でその日の過ごし方を考え、一人ひとりに合ったペースを考え、支援している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれは、スタッフが入居者と一緒洋服を選び、理、美容については、近所の理美容院への支援、本人、家族からの希望、要望へも可能な限り応えられるよう支援している。化粧品も希望者にはお手伝いをし、毎日行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開放しており、どなたでも出入りできるようにになっている。帰宅願望強く「家に帰る」と言われる方もいるが可能な限り外をあるけるようにな状態になっている。しかし、スタッフが手薄になりどうしても施錠せざるを得ない場合は家族の了承を得て行っているが極めてまれである。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入浴時、トイレ時などプライバシーに配慮し同姓介助確認を心掛けている。夜間など異性対応になることも多いためスタッフ間で相談し、本人の希望を聞きながら居室の外から見守りを行うなど一人ひとりに会った対応をしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご家族やスタッフ間で話し合い注意の必要な物品の保管・管理は配置等工夫し、使用等見守り行い状況を記録に残し、一人ひとり合わせた取り組みをしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災等については、防災管理マニュアル、防災訓練を実施し、その他の事故防止策はひやりはっと及び事故報告書を作成しスタッフ間で話し合い今後の再発防止・ケア計画に組み込む等一人ひとりの状態に応じた防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変、擬古発生時の緊急マニュアル、勉強会や消防署救急隊による救急講習を実施したが、訓練を定期的には行っていない。	○	定期的に訓練等行い、入居者の安全の確保に努めると共に更なるスキルの向上を図りたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理マニュアル作成・防火訓練年2回行っている。しかし、日頃より地域の方々の協力を得られるような働きかけは出来ていない。	○	地域住民の協力を得られるよう防災訓練等行う際は、地域の人々に参加を呼びかけていきたい。又、今後、地域運営推進会議等で話し合いのばを設けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>法人院長、ケアマネ等の意見も聞き、近況報告のお便り、面会時、電話等での状況報告の際、今後起こり得るリスク等をご家族に説明させていただいている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>入居者との会話、訴え、身体の様子やバイタルなどを通して身体状況を把握し、体調の変化等に気づいた際は、速やかに院長に連絡をし対応を行っている。又、必ず記録に残し情報の共有をしている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>医師の指示通り薬を服用し、症状の変化を記録に残している。副作用等については、薬剤師からの説明があり、その都度、スタッフ間で話しをし理解に努めている</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>便秘気味の方は、排便チェック表を付けており、飲食物等工夫をし、食後トイレへと排便誘導を行い対応している。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後口腔ケアを行い、一人で出来ない方についてはスタッフが一部介助をしながら対応している。又、歯科往診もお願いしているので、定期的に口腔内ケアをお願いしている。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>法人栄養士に指示していただき栄養バランスを考えた献立を作成している。食事摂取量が少ない場合は記録に残し、本人の好きな物を軽食として提供している。水分については、こまめな摂取を促しており、足りない分はその都度好きな物を提供している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	法人院長の指導のもと取り決めされており、実行している。又、スタッフ間で勉強会などを行っている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	法人栄養士に指導、勉強会をし調理器具の消毒等を徹底している。食材については週3日買い物に行き買いだめをしないようにし、刺身など痛みやすいものは当日購入するなどしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	固い看板などは設置せず、誰でも気軽に出入りできるような看板を設置している。建物周辺には花を植え親しみやすいようにしている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家にいる様な気持ちになれるような家具やカーテンにし、照明については、その季節、天候によって調整し、落ち着いた雰囲気を作っている。又、テレビのつけっぱなしなどをせず、生活音を大切に話し声や笑い声の聞こえるような空間創りをしている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間が和室と洋室の二箇所に分かれており、ダイニング、テレビ前の空間、中庭など状況に応じて自由につかえるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日を入居者のペースで過ごし、寄り添い、お互い信頼関係を築いて、安心して生活できる関係作り、環境作りを行っている。又、家族の方も協力してくださり、意見、苦情等気軽に言い合え、共にホームを支えてくださっている。全スタッフ入居者に対し尊敬と、感謝の気持ちを忘れることなく、入居者と共に笑い、悲しみ、喜怒哀楽を共にし心のふれあいを大切にしている。入居者、家族、スタッフとの関係、そして、ホーム内の空間共に温かい雰囲気のあるホームです。